



# 《みんなに伝えたい七尾商工会議所のうらら》

## 七尾商工会議所女性会

七尾商工会議所には、みなさんの事業に関連したたくさんの方がいます。弊所は、昨年からのコロナ禍においても助成金・補助金申請などの事業者支援を積極的に行って参りました。情報掲載された新聞やパンフレット資料だけではなく理解しきれない活動内容について、会員の皆さまに、知ることで興味を持ち、上手にご利用していただくため、様々な切り口で商工会議所活動を紹介します！というのが今回の企画です。

さまざまな事業支援があるため「どこに相談したらよいか分からない」と迷うこともあると思います。そんな時には、まず七尾商工会議所へご相談ください。私たちの仕事は、会員ニーズを知り、それぞれの事業ケースに合わせた支援を紹介し提供することです。

「商工会議所女性会について」▼商工会議所女性会は、「女性の力で地域を元気にすること」を目的として全国477商工会議所に設置され、各地の女性経営者（それに準ずる者）約21,190人の女性会員により組織されている団体です。目まぐるしく変わる社会の現状をとらえながら、協調力・包容力・忍耐力、そして育む力といった女性の特質を生かし、活力ある日本のため「行動する女性会」として社会に貢献することを目指しています。

「七尾商工会議所女性会について」▼七尾商工会議所女性会は、清掃活動、各種イベントへの参加を通じ、会員相互の連携促進、地域の健全な発展に寄与する活動を行っています。平成29年（2017）には、平成9年からスタートした小丸山公園下の植樹管理において、花と緑の愛護に顕著な功績のあった団体に贈られる「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰」を受賞しています。

前会長・特別顧問：木下八重子

15年に渡り七尾商工会議所女性会会長を務め、平成27年（2015）10月に全国各地から約3,200人の会員が石川県に集結し開催された「第47回全国商工会議所女性会連合会石川全国大会」では大会会長として石川県商工会議所女性会連合会（珠洲・輪島・七尾・金沢・白山・小松・加賀）をまとめ上げ大会成功へと導いた。

新会長：沢野千穂子

今年度（令和3年）より木下前女性会長から座を引継ぎ、これからの女性会の舵取りを担う立場となる。七尾の地域活性において女性の果たすべき役割は大きいと考え、会員と共に、女性らしさを大切に思いやりの心で会の一致団結を目指す。

### ●お問い合わせ

七尾商工会議所 女性会事務局  
〒926-8642 七尾市三島町70番地の1  
TEL：54-8888 FAX：54-8811  
URL：https://www.nanao-cci.or.jp/c4.html

Facebook：



## 「温故知新」継続と進化を楽しみながら

「しなやかに強い女性マインド」が、「これからの地域を育む力になる」

### ■つながる商工会議所活動

木下：私が商工会議所に入会して良かったと思うのは、七尾の中でいろいろな業種の方と交流が持てたことです。自分の事業だけでは出合いの幅は狭まりますが、会議所での活動を通して異業種の方々と話す機会をいただき、その中で深められた関係性は自分の事業



前会長・特別顧問 木下八重子 氏

へとつながり、今では私の大切な宝物となっています。女性会でのつながりも同じです。今までお会いすることの無かった人、業種だけではつながることの無かった人との出会いは、知らない事を知る、新しい事に気付く良い機会になっています。

沢野：この会がお互いに知り合う場となっているのは本当ですね。同じ地域に住みながら顔も知らずに過ごしている人も多いですが、その中で活動を通して顔を合わせ、話をしてみると、意外な共通点や人となりなど面白い発見がたくさんあり「今度ご飯でも一緒にしましょう」という話にも発展します。商工会議所は商売をされている人の集まりですの

で、知り合いになれば「どうせ買っならあの方の所で」となるものです。そうやって横につながっていく、地域の方の応援へと発展していくのだと思っています。

木下：現在、七尾商工会議所女性会（以下「七尾女性会」という）には88名の会員が在

全国で出会うたくさんの方々がおっしゃるんです。それでもその商品があつたという間に飛ぶように売れていく(笑)。それぞれの場所で経済効果が生れるように広域エクスカーションを組み、奥能登まで前泊後泊の方々もたくさんいらつやいました。その宿泊先のホテルでもお土産配用用の段ボールが山積みで、女性パワールの凄さを感じました。

木下：その時の経済効果は、3億3千万円。大会では、ホストである私たち石川県商工会議所女性会連合会が加賀友禅でお出迎えをし、七尾女性会も和倉温泉にお泊りの方々のお見送りなど、訪れて下さった全国の皆さまに、「石川のおもてなし」を喜んでいただきたい美り多い大会となりました。私は大会会長を務めさせていただきましたが、皆さんの協力があつたからこそ、この全国大会を成功させることが出来たと思っています。会員一丸となり大きなイベントをやり遂げたことで、県女連がまとまり、強いつながりを持つようになった。この思いは、私にとって忘れ難い素晴らしいものとなっています。

沢野：今でも木下前会長が行ってきたことをしっかりと踏襲し、つないでいくことを第一に考えています。ずっと継続し表彰もされた小丸山清掃、植樹なども、他団体とつながり一緒に活動する大切な行事であり、4月の清掃では100を超える人が参加してくれています。今年にはカナナの花を植え、ま

だ小さいですけれど色とりどりの花を咲かせています。あの場所は七尾の玄関口のような所ですから、緑や花がないと寂しい感じになりますよね。

木下：平成9年（1997）にツツジを100株植えたことから始まりました。それまではツツ吉が生えるだけだったんです。もって華やかにしたいと思ったりもしますが、底が浅いので養分不足の問題や土の入れ替えなど、継続していくためにはいろいろな検討も必要になってきますね。

沢野：かなり前に「おいでま」という会員紹介冊子を作っていましたよね？会員一人ひとりに写真付きで分かりやすくまとまっています。そういう物があるとなかなか参加出来ない人のお顔も分かってつながり易いかもかもしれません。木下：あの頃の女性会80人全員の紹介が載っているんです。商売的なつながりを作る上で、何をしている人なのか分かる物が手元にあると良いと思います。新しい会員も増えたことだし、リニューアル製作することを考えて実行したいですね。

沢野：他にもモントレージャズでの出店や、10月30日「香りの記念日」商標登録など、つないでいきたいことはたくさんあります。今年度の県女連大会は七尾で開催されるのですが、そのお土産を入れるため新聞紙で折ったバックの製作をしています。新聞紙の用途は多岐に渡り、昔から再利用もされ、SDGsにもつながる活動になると考えています。学生の方々のワークショップの開催など、地域を元気にする楽しい企画も展開させていきたいです。女性ならではの「育む」という分野は、私たち女性会の大切な役割になるのではないかと考えています。

木下：以前「七尾女性会」はボランティア的な事しかなかったのでは？と言われたことがありました。清掃活動だけではなく、つながりを作り自分の仕事に活かす活動がたくさんあります。私は新しい会員の方にお声掛けする際に「自分に合ったものを選んで出てくれるように」と伝えるようにしています。

籍しています。昭和56年（1981）に日本商工会議所から時代の変化に呼応するように女性会設立の打診があり、石川県内では最初に輪島において設立、それに続き、加賀、七尾、小松、白山、珠洲、平成20年（2008）には、金沢にも設立されました。そして、現在の県内7単会<sup>※</sup>に至ります。

沢野：木下前会長は七尾女性会の会長を15年、長年に渡り石川県商工会議所女性会連合会会長（以下「県女連」という）も務められました。単会だけでなく県女連をまとめるのは大変なことだったろうと感じています。私は全国大会準備の段階で入会させていただき、また会について深く理解しているわけではないのですが、その姿を拝見させていただき勉強して参りました。踏襲したいと思ってもその通りにはなかなか出来ないのですが、前会長がご尽力されていた大きなつながりを大切にしていきたいと思っています。

木下：今はコロナ禍において動けない状況ですが、横浜商工会議所女性会との交流なども行われています。県女連大会などの広域連携事業も活発です。全国大会という大きなイベントが鍵となり、県女連がまとまり、全国での認知度も上がりました。七尾だけではなく

ろいろなイベントや勉強会もあるので、参加することで人とつながる機会を大切にして欲しい、それが今後の人脈になっていくのだと思います。

沢野：人とのつながりで考えられると出ないと損ですよね。最初はちょっと煩わしいと感じる人も居ると思うんですが、参加したらいろいろなつながり、話も聞けるし、勉強にもなる。先日の役員会で「これからの強い事は何か？」とお聞きしたんですが、とても良い意見がたくさん出てきました。私はアンケートなどを行い、会員皆さんの意見を聞きながらやっていきたいと考えています。

木下：若い役員が増えたことで、新しい意見が出てきたなと思いましたね。この時代において、女性が人前ではっきりと自分の意見を言うことはとても大切なことです。女性が頑張っていくか、一みんなで楽しい女性会になる活動をしていけたらと思っています。

### ■「しなやかに強く」「これからの女性会

沢野：私は、女性ならではの役割があると考えています。男性が気付かないようなことに細やかな心配りや気遣いを持って接すること、仕事の上で大きな意味を持ちます。商売も人間同士の関わりである限り、機械的に合理的にと進まないこともありますから。特に、小さな街、小さな会社にはこの男女の役割分担は大切で、「コミュニケーション」を大切にすると女性らしさは、時代が変わっても必要であると思っています。私はそういう気配りを、前会長の後姿からたくさん学ばせていただいたと感じていて、この七尾女性会で見ること、知ること、出会うことは、自分を大きく成長させてくれるものになると皆さんに伝えていきたいと思っています。

木下：私は、この街はなんだか少し元気がないんじゃないかと思うんです。今の状況を考えると仕方ないのかも知れないけれど、「コロナ禍のこんな時だからこそ上昇気分を検討していかないと前に進まない」と思うんです。「止めるのは簡単、だからそっちを止めてつな



新会長 沢野千穂子 氏

という意識込みで進んでいくことが、活性化につながっていくと思います。

沢野：県女連大会など女性の集まりは、細心の注意を払いつながりながら活動していますよね。女性ならではの強さもありますから、「コミュニケーション」を大切にいろいろな人の意見を聞きながらどんどん行動していくことで楽しい会になっていくと思います。

木下：七尾は金沢などに比べ女性社長がとて少ない。七尾商工会議所において女性会会長は常議員会にオブザーバーとして参加させていただきます。私は女性数が多い常議員となり男性社会の中ですっきりと発言が出来る、そんな女性が増えてくることが地域を活性化させていくために必要だと思っています。また少し時間がかかるかもしれませんが、前回の七尾女性会役員会での若い人たちの意見を聞きながら頼もしく思っていました。

沢野：木下前会長ご自身の人間性により、会を引っ張り上げて下さったことに感謝と尊敬があります。大きなものを託されてしまったわけですが、ご尽力いただいたことをしっかりと踏襲してつないでいきたいと思っています。女性会がこれからどう変わっていくのか私も楽しみです。前会長が傍らで見守って下さることを力強く思い、今後の会運営をしっかり行っていきます。

interview & writing 小山 百代